

伊達市地域創生総合戦略策定に係る各種会議の主な発言

会議名(月日)	発言内容
第2回有識者 会議 (8/19)	<ul style="list-style-type: none"> ● 一度転出しても戻るといふ。戻らない原因が雇用だけにあるのか。伊達市が好きだとか、魅力があるという教育をされていなかった結果ということでもあるのではないか。教育の問題、伊達市が好きになる市民を育てていくことも入れていってほしい。 ● 雇用だけの問題で考えていくと、産業をおこせば人が戻るでしょうとなるが、それだけではなく、もう少し長いスパンで見ると、伊達市民でいることを誇りに思える教育についても、視野に入れてほしい。 ● 伊達市もこれをやるということを打ち出したほうがよいのではないか。 ● お年寄りの流入を狙うといった施策展開も考えられる。 ● 伊達市に移住した決め手は、「ここはいいところだから来な」と言われ、それが引っ越すきっかけになった。市の助成とか関係なく、結局は人。窓口の人や伊達市で初めて会った人が、伊達市は良いところだと言えるかどうか。 ● 伊達市は桃がある。市外の人には欲しいと言う。霊山にはロッククライミングで素晴らしい場所があり、アウトドアにはぴったりの場所。地域の魅力は案外地元の人には知らない場合もある。 ● 桃の里マラソン大会での宿泊施設がない。保原総合公園に合宿所をつくる。 ● 単発のイベントのために宿泊施設をつくるのは民間としては難しい。 ● 働く場所があつて、住む場所があつて、保育園や学校があつて、買い物も不便しないという総合的な環境が整わないと難しい。 ● 伊達市も歴史を掘り起こした上で、良さを教育の場でも伝えていくことが大切 ● 病院では、医師の確保が課題となっている。伊達市内には産科や小児科のある病院も少なくなっている。何かそうした部分の施策も必要 ● 伊達市は農業のまち ● 核家族が多いのが現状だと思うが、同居の良いところは、祖父母から思いやりの心を育ててもらえるところ。伊達市が好きだと言う気持ちも育てていくのではないか。 ● 霊山という地域は田舎で、近所付き合いが強く、地域が家族というところもある。 ● 人口シミュレーションはマイナス思考を強めるようなところもある。前向きになるような計画に工夫してほしい。 ● 伊達市の人口を増やすには、お年寄りを増やすことのメリットはないのか。健幸都市は、お年寄りにやさしいまちとして売りにできる。 ● 何やっても出生率はそう増えないと思う。これまでも厚労省は散々やってきた。それよりは、お年寄りの移住の方がよいのではないか。 ● 高齢者を地域経済の核、重要な役割の担い手と位置付けるべきではないか。